

(第2号様式)(用紙日本工業規格A3横長型)

神奈川県教育委員会教育長 殿

提出日：平成28年5月17日

学校名：県立秦野総合高等学校

平成28年度 学校評価報告書(目標設定)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none">生徒の意欲を高め、進路選択に結び付く教育課程の改善に取り組む。ボランティア活動を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。	生徒の多様な進路希望に対し、生徒にわかりやすい総合学科としてのカリキュラム編成を再検討し実現を図る。	<ul style="list-style-type: none">履修科目指導、進路説明会等において、生徒一人ひとりの進路実現に向けたガイダンスを実施する。総合学科としての特性と本校の特色を活かしたカリキュラムの編成に向けた検討を行う。基礎学力の定着と確かな学力の育成に向けた授業改善を目指し、さまざまな方策を検討する。生徒の多様な進路希望に対応し、生徒が主体的に課題に取り組めるよう、グループ学習や発表型授業に取り組む視聴覚教材やIT機器の整備を推進によって、生徒の学習に対する興味・関心・意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none">各種ガイダンスによって、生徒の進路希望に応じた科目選択ができてきているか。新たなカリキュラム編成に向けた検討が進んだか。学校全体として確かな学力を育成する方向での授業改善ができたか。各教科が発表型、グループ学習を授業に取り入れ、生徒が主体的に取り組むことができたか。視聴覚機材やIT機器を整備し、利用することができたか。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none">部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。教育相談コーディネーターを活用した生徒一人ひとりへの支援体制の充実を図る。	生徒の規範意識の確立を図り、豊かな心の育成に向けた取組みを充実させる。	<ul style="list-style-type: none">部活動の加入促進を図り、更なる部活動の活性化をめざす。集会やLHRでの生活指導を通し、生徒の規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立および社会性の醸成を図る。教育相談コーディネーターを中心としてケース会議等を定期的に開催するなど教育相談支援体制を充実し職員の共通理解を深めるとともに、スクールカウンセラーや外部関係機関、専門機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none">部活動の加入数の向上や活動の活性化が見られたか。生徒の規範意識や基本的な生活習慣に向上が見られ、授業を中心とした学校生活を整然と送ることができているか。教育相談体制を充実させ、ケース会議を定期的に開催することができたか。また、外部機関と適切に連携を図ることができたか。

3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」を基盤とした、生徒一人ひとりの進路実現に結びつく進路指導・支援体制の充実を図る。 	<p>(1)生徒の進路実現に向け体系的なキャリア教育を実施する。</p> <p>(2)授業や部活動を通じてリーダーの育成と社会性の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育実践プログラムに沿った指導を行うとともに、その検証と改善に向けた検討を行う。 進路実現に向け、インターンシップ等体験的活動をさらに推進させる。 進路実現に向け、進路支援・学習支援をより組織的な体制で展開できるよう取り組む。特に、大学一般受検者へ対する支援を充実させる。 進路情報を積極的に発信し、適切な進路選択、進路実現ができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの進路実現に結びつく指導ができたか。また、その検証と改善に向けた検討が行われたか。 しごとのまなび場、夏季公開講座、保育体験、看護体験など参加状況が向上したか。 進路実現に向けた様々な支援が行われたか。 進路実現に向け、適切な情報の発信が行われたか。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動を核とした地域貢献を図る。 地域・社会との相互交流による教育の推進として、「南が丘地区豊かな心を育む協議会」との幅広い連携と協働を図る。 	<p>(1)ボランティア活動、あいさつ運動を核とした地域との連携を深める。</p> <p>(2)地域と連携した教育活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業や部活動を通して積極的に地域のボランティアに参加する態度を育てるとともに、地域・社会との連携を図る 南が丘地区との連携を深めながら、本校の教育活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が寄り多くのボランティア活動に参加しようとしたか。また、振り返りの際に意識の向上が見られたか。 南が丘地区豊かな心を育む協議会との連携を図り、地域社会の児童生徒の教育活動の発展に寄与できたか。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 コミュニティー・スクールを中心とした学校運営への変換を図る。 	<p>(1)安全管理・危機管理等を踏まえた連携体制を整備する。</p> <p>(2)年齢層の違いを踏まえた教職員の連携を通し、人材育成及び事故防止を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理支援システムの運用において、手順・点検体制を確認し、必要に応じて再整備を行う。 危機管理を踏まえ、グループ、年次、教科の業務の透明化を図り、問題を共有化し、対応できる職場を目指す。 若手教職員への学校独自の研修を行い、意識を高める。 サブリーダーに若手職員を任用し、次世代の人材育成を図る。 業務遂行等の検証を行い、業務の効率化、事故防止を踏まえたグループ再編を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理支援システムの運用において、手順・点検体制を整備できたか。 グループウェアや引継ぎ書の利用を行い、業務の透明化と問題の共有化を図り対応することができたか。 若手教職員対象研修会を実施し効果をあげることができたか。 サブリーダー制を運用することができたか。 P D C A サイクルを実施して業務改善を図れたか。 グループ再編について検討を行えたか。